

.....

～年頭のご挨拶～

北陸農政局長 遠藤 知庸（えんどう ともおぶ）

.....

明けましておめでとうございます。

昨年は、1月の能登半島地震、9月の能登半島豪雨と大きな災害が続きました。被災されました方にお見舞い申し上げますとともに、今年が良い年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、昨年は、インバウンドが好調だったこと、食料品の中で米の値上がりが比較的に緩やかだったことなどによる米の需要の伸びを背景に、近年になく主食用米の在庫量が低い状況となりました。8月には、一部量販店で品薄状態になったことをきっかけに、一時的な米の買い込み需要も発生しています。

今日のように、社会全体が急速に変化し、「変動性」「不確実性」「複雑性」が取り巻く中では、あらゆる事態を想定し、国民に食料を継続して安定供給できる農業の生産性向上と持続可能性を両立させながら、農村地域のコミュニティを維持していく必要があります。

昨年5月に改正された食料・農業・農村基本法では、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態となる「食料安全保障」が基本理念の中心に据えられ、新たに環境と調和のとれた食料システムの確立が位置づけられました。もちろんこれらのベースには、農業・農村の持続的な発展があります。

ふり返って奥能登の状況をみると、地元から仮設住宅などへ避難している方も多く、営農再開に向けた相談のため、集落の方と連絡を取ろうにも連絡がとれない現実があります。

奥能登の状況は長期的な人口減少という点で、災害が時間を進めたと考えれば、中山間地域のコミュニティの維持という課題を鋭く突き付けられたように思います。

農村集落は、暮らしの中で自然発生した自然村であり、住民の共同体意識や共感が、農業のみならず寄合や普請などでも暮らしを支えています。こうした農村コミュニティの持つ力を再認識する必要があると思います。

新潟県山古志村では、地震で全村避難という選択をしましたが、コミュニティの維持に心を砕いた結果、人口は半減したものの、地元を愛する人たちで新たな山古志村が築かれています。

今年は中山間地域直接支払の第6期対策もはじまり、農村 RMO への支援も充実されます。

新しい年に新たな取り組みが各地で始まることを期待して、年頭の挨拶とさせていただきます。

.....

【ご意見】

https://www.contactus.maff.go.jp/j/hokuriku/form/soudan_madoguti.html

【ご注意】

メールマガジンに記載した URL で、一部 PDF 形式のものがあります。PDF ファイルをご覧いただくためには、以下の URL をクリックして Adobe Reader をダウンロードしてください。

<https://get.adobe.com/jp/reader/>

【配信変更及び配信解除】

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/mm/index.html#haisin>

編 集

北陸農政局企画調整室

TEL：076-232-4217

北陸農政局 Web サイト

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/index.html>
